

# 公益財団法人 福岡アジア都市研究所 都市政策資料室

## URC資料室だより NO.75 平成26年9月号

〒810-0001 福岡市中央区天神 1-10-1 福岡市役所北別館6F

☎092-733-5707 FAX:092-733-5680 e-mail: [library@urc.or.jp](mailto:library@urc.or.jp)

福岡アジア都市研究所は、  
福岡市を中心に産学官が協力して  
設立した研究機関です

### 目次

- ◆URCニュース 福岡市立香椎第一中学校の生徒さんが当研究所を訪問されました。 . . . . . 1
- ◆FDCニュース ソーシャル・インパクト・(SIB)プロジェクトの設置について/福岡地域戦略推進協議会 ディレクター 石丸修平 . . . . . 2
- ◆URC資料室ニュース

- 平成26年度第2回ミニセミナー開催予告今月のおすすめ他 . . . . . 2
- ◆マスコミでみるURCの今 . . . . . 3
- ◆所員雑感 「美しかったパリの夜空」-下-/特別研究員 岡田 允 . . . . . 3
- ◆資料速報 平成26年8月受入分 . . . . . 4

## URCニュース 福岡市立香椎第一中学校の生徒さんが当研究所を訪問されました

8月26日火曜日、福岡市立香椎第一中学校1年生学級の生徒さん(22名)と担任の先生が当研究所を訪問されました。総合学習の一環で来訪され、福岡の国際化・国際交流について学ぶため、当研究所を訪れたものです。

学習会では、最初に当研究所の梶原常務理事より「福岡の国際化の取組について」をテーマに、当研究所の紹介をはじめ、福岡市のこれまでの国際化に関する取組みや今後さらに目指す国際化のための取組などを映像や統計のデータを引用しながら解りやすく説明がありました。

次に、子どもたちの国際交流の取組みとして、長年実績のある“アジア太平洋子ども会議 in 福岡”事業について、事務局長より紹介があり、アジア各国の子ども達と

日本の子ども達・家族・市民の交流を深める様々な活動の説明に生徒さん達は熱心に聴き入っていました。

最後に当研究所外国籍の研究スタッフと意見交換を行いました。中国出身の唐主任研究員・韓国出身のピョンさん・インド出身のクマルさんが当研究所を代表して参加し、生徒さんからの質問にユーモアを交えながら、それぞれの視点で回答しました。冒頭に、緊張が解けない生徒さんの気配を察したクマルさんが、一人ずつ握手をしながら英語で自己紹介をして回るというサプライズがあり、一気に場が和みました。

約2時間の勉強会でしたが、これを機に生徒さん達が、将来福岡のグローバル人材として世界で活躍されることを期待しています。  
(夏井圭介 主任研究員)



↑梶原常務理事より「福岡の国際化の取組について」を説明



←当研究所外国籍研究スタッフによる質疑応答

一人ずつ握手をしながら英語で自己紹介するクマルさん↓



“アジア太平洋子ども会議 in 福岡”事務局の方より事業の紹介→



## FDCニュース ソーシャル・インパクト・(SIB)プロジェクトの設置について

### 福岡地域戦略推進協議会ディレクター 石丸修平

福岡地域戦略推進協議会 (FDC) 事務局は、福岡都市圏における地方自治体が担う社会政策の実効性向上と公的投資の削減及び地域における新たな投資市場とイノベーションの創出に向けた具体策の一環として、「ソーシャル・インパクト・ボンド (SIB) プロジェクト」を設置しました。SIB とは、英国で 2010 年に導入された制度で、米国のマサチューセッツ州やニューヨーク州等でも既に導入されていますが、主に民間投資家からの出資を元に従来行政が担ってきた社会政策を実施する制度、あるいは社会的企業事業が生む社会的効果 (公共コストの削減額等) を評価し、投資をしたものへのリターンとして行政費用の削減額に利息をつけて支払う仕組みなどと定義されています。

振り返ってみれば、1970 年代以降、財政赤字の増大や公的部門のパフォーマンス増大を背景に、公的部門に民間の経営手法を取り入れる動きが NPM (New Public

Management) というマネジメント手法として確立し、1990 年代以降には、公民が連携して公共サービスの提供を行う PPP (Public Private Partnership) が導入されるなど、公共領域における民間の役割は年々大きくなってきました。SIB はこの流れを加速させるとともに、世の中にある課題や社会的ニーズに対し、これまで公共部門が公共サービスとして担ってきた領域を、事業的手法によって解決を図れることに加え、新たなイノベーションを誘発するなど、新たな価値を生み出す可能性を秘めています。

FDC 事務局は、産学官民のプラットフォームとしての強みを活かして、FDC 会員をはじめとする民間企業や団体、大学、財団、中間支援組織、NPO 法人等と連携し、SIB に関する調査・提言・発信や地方自治体への導入支援等を実施していきたいと考えています。

## URC資料室ニュース

### ①平成26年度 第2回ミニセミナー 及び 今月のおすすめ

#### 『和のランドスケープ・プランニング—日本の美しい街並み創造—』出版報告会開催！

平成18年度市民研究員、平成19年度短期研究員としてご活躍された増田元邦 (よしくに) さんが、本年1月「和のランドスケープ・プランニング—日本の美しい街並み創造—」と題する本を出版されました。当研究所が所蔵する雑誌「LANDSCAPE DESIGN ランドスケープデザイン8月号」でも紹介されました。土木学会誌にも掲載予定です。

本誌3月号「今月のおすすめ」でもご紹介し、すでに読まれた方もいらっしゃると思いますが、この度、ご本人から直接本の内容や、現在の福岡市の景観について思うこととお話していただくことになり、下記のとおりミニセミナーを開催することにいたしました。

ミニセミナー終了後は、講師を囲んだ交流会も予定しています。

皆様のご参加をお待ちしています。

#### 記

【日 時】平成26年9月24日水曜日 18:30~20:15 【会 場】当研究所 会議室

【主 催】(公財)福岡アジア都市研究所 共催 福岡市 ※参加無料 (希望者には、本代1,000円(割引価格)で販売)

【定 員】30名 \*申込多数の場合は、先着順とさせていただきます。

**\*交流会** 【日 時】平成26年9月24日水曜日 20:30~22:30

【会 場】カフェ・ガレリア 中央区大名2-50-1 グランドサウナビル2F 092-751-2189 【会 費】4,000円

【お申し込み】電話かFAXまたは、E-mailで、住所・氏名・電話番号を添えて下記までお申し込み下さい。

【申し込み締め切り】9月22日 月曜日 Tel:092-733-5707 Fax:092-733-5680 E-mail:library@urc.or.jp

### ②福岡県立図書館の横断検索が使えるようになりました。

本年4月のホームページリニューアル以来、当研究所の資料が検索できない状態だった福岡県立図書館横断検索が、この度対応を完了され、従来通り検索できるようになりました。これまでは見られなかった雑誌も検索対象になり、さらに便利になっています。大いにご利用ください! [http://www2.lib.pref.fukuoka.jp/?page\\_id=75](http://www2.lib.pref.fukuoka.jp/?page_id=75)

(山崎三枝 司書)



## ◆マスコミで見る「URC」の今！—最近1か月の情報を中心に—

## ◎新聞

(2014/8/24 東奥日報 朝刊 19p)

十和田・元美 入館100万人開館から6年5か月  
市民研究員OB藤浩志さんが館長としてコメント

(2014/8/24 山形新聞 朝刊 18p)

長井市 ながい市民未来塾 新たな地域産業づく  
りの視点など学ぶ当研究所OBの山本匡毅現山形大学准教授が講師を  
務めるながい市民未来塾の開催報告

(2014/8/23 西日本新聞 朝刊 25p)

アット@ホームタウン レトロな街に最先端文化  
博多区川端地区 古くて価値あるビルに 再活用  
の冷泉荘 市民研究員OB吉原勝己さんがオーナ  
ーとしてコメント

(2014/8/13 日本海新聞 21p)

鳥取県が協議会設置 地域づくりや移住定住促進  
当研究所OBの新井直樹現鳥取環境大学准教授が協  
議会長に選出され、コメント

(2014/8/12 読売新聞 朝刊 32p)

詳論 ふくおか 水辺歩き 都心回遊構想 博多川

◀那珂川▶薬院新川 快適空間 議論活発化を  
福岡地域戦略推進協議会石丸修平ディレクターが福  
岡のウォーターフロントの課題を探る。

(2014/8/9 西日本新聞 朝刊 25p)

「はかた大学」20日開講 市民講座、受講生を募  
集一街がキャンパス…ビジネスや文化など学ぶ  
当研究所OGの佐々木喜美代現アジア・エイジ  
ング・ビジネスセンター上席研究員が講師を務める「博  
多を学ばナイトII」の開催予告

## ◎雑誌

(2014/8/12 環太平洋ビジネス情報「RIM」No.54  
56p)「着実に拡大するアジアからの対日直接投資」/岩崎  
薫里日本総研調査部上席主任研究員著に当研究所  
OBでフェローの天野宏欣氏が執筆した「アジアにお  
ける福岡ビジネス圏の形成についてII」の第IV章が  
引用される。

## 所員雑感 『美しかったパリの夜空』—下— 特別研究員 岡田 允

パリから、レオナルド・ダ・ヴィンチ、ミケランジェロ、ラ  
ファエロなどの巨匠が活躍したルネサンス文化の中心  
地フィレンツェに飛び(2時間弱)、同市内の4つ星ホテ  
ルに2泊し、定番のベッキオ橋、ベッキオ宮殿、サンタ  
・マリア・デル・フィオーレ大聖堂(ドゥオーモ)、ジョットの  
鐘楼、サンタ・マリア・ノヴェッラ教会などを見学しました。  
その後、息子と嫁の運転によるレンタカー(シートベルト  
が壊れたフィアットの小型車)でワインの名産地トスカ  
ーナ地方オルチャ渓谷をドライブしました。妻の「もう一度  
行きたい」という強い主張が通ったためです。丘の上の  
城壁に囲まれた小さな町モンテプルチアーノとサン・ク  
イーリコ・ドルチャに各1泊し、フィレンツェに戻り(1泊)、  
アムステルダム経由で福岡に戻りました。サン・クイー  
リコ・ドルチャでは、レストランの数も少ない小さな町にも  
かかわらず、幾度もミシュランの星を獲得しているとい  
うトラットリアがあり(実は宿泊ホ

テルの系列だった)、夕食をとりました。それぞれ異な  
った料理を注文し、ワインを飲みながら食べあい(食べ比  
べ)をしました。ちなみに私はブルスケッタを注文。

フィレンツェでもミシュランの3星レストラン、エノテカ・  
ピンキオーリを予約してくれていたのですが、我々夫婦  
は翌日の出発が早朝4時半と早かったため、キャンセル  
しました。なかなか予約が取れない有名レストランだそう  
で、帰ってからシンガポールにいる娘から大いに「惜し  
がられ」ました。

実は、パリでは、4人組の「抱きつき」女スリに遭い、ポ  
シェット内の財布から円札を取られるという「経験」もさせ  
てもらいました。

福岡に帰って次の日曜日、イオンモールで買い物中、  
カルディでモンテプルチアーノのワインを特売しており、  
通りがかりに店員に薦められ、つい買ってしまいました。

終わり



←フィレンツェのジョットの鐘楼と  
ドゥオーモ(奥)  
↓トスカーナ地方のモンテプルチアーノ



↑ トスカーナ、オルチャ渓谷の風景  
←モンテプルチアーノの坂道